

令和6年度 第2回 地区推進会議 会議録

1. 開催日時

令和7年3月24日(月) 10時30分～12時00分

2. 開催場所

市川市役所第1庁舎5階 第3委員会室

3. 出席者

・福祉委員

【国府台地区】岸田委員【国分地区】服部委員、橋本委員

【曾谷地区】日光委員、高浜委員【大柏地区】淡路委員、吉野委員

【宮久保・下貝塚地区】有坂委員、後藤委員

【市川第一地区】永井委員、山本委員【市川第二地区】滝沢委員、安倍委員

【真間地区】小林委員、千葉委員【菅野・須和田地区】吉野委員、松本委員

【八幡地区】鈴木委員【信篤・二俣地区】加藤委員、那須委員

【行徳地区】森川委員【南行徳委員】松倉委員、山本委員

【市川市ボランティア協会】山崎委員

・市川市

・市川市社会福祉協議会

4. 傍聴者

0名

5. 議事

(1)地域課題に関する調査の実施について

(2)令和6年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の報告

(3)その他

6. 配付資料

- ・資料1 : 地域課題に関する調査の実施について
- ・資料2 : アンケート内容

7. 議事録

(午前 10 時 30 分開会)

発言者	発言内容
	議題(1)地域課題に関する調査の実施について
事務局	それでは、議題「(1)地域課題に関する調査の実施について」地域共生課長よりご説明いたします。
地域共生課長	(資料 1 に基づき説明)
事務局	ただ今の議題(1)につきまして、ご質問ご意見等ございましたらお願いいたします。
南行徳地区	地域課題の調査というものは毎年実施しているのでしょうか。あるいは今回の第 5 期市川市地域福祉計画が施行されたことをきっかけとして始まったのでしょうか。 また、過去の課題に関する情報はございますでしょうか。
事務局	ご質問ありがとうございます。こちらのアンケートについては初めて実施させていただくものとなります。第 5 期市川市地域福祉計画は令和 6 年度から向こう 6 年間の計画として市川市が策定したのですが、このタイミングに合わせてこちらのアンケートを全地区にお願いさせていただいております。14 地区の中でそれぞれ課題が浮き彫りになってくるかと思えますので、まずは地区単位で課題をどのように捉えているか、地域ケアシステム推進連絡会議にて協議や意見交換を実施した後に、来年度秋口頃に再度こちらの会議にて報告をさせていただこうと考えております。
市川第一地区	地域共生課としては、この調査をもとに課題に対して何かしていただけるのでしょうか。
事務局	行政側として何かできないかというご質問かと思いますが、地域共生課は一つの課ですので、質問項目にある「交通が不便」や、「買い物が不便」といったものなどについては、単独で施策を考えていくということは困難です。そのため担当部署と協議し、必要なものは行政側のサービスについて検討を進めていく材料にさせていただければと思います。行政側のサービスが新しく生まれるかどうかについては、現段階では確定していない状況です。
真間地区	アンケートは毎年取るのでしょうか。

事務局	アンケートはまず今年1回実施してみて、数年後、第6期市川市地域福祉計画の策定時に新しいアンケートを実施させていただこうかと考えております。
市川第一地区	私の経験ですと、このようなアンケートは調査のための調査に陥る傾向があり、市役所の自己満足に陥る傾向があると認識しております。そこで、実効性を持たせるための担保はどのようにお考えでしょうか。
事務局	調査をしてそれがどこに繋がっていくかが一番気になる場所だと思います。我々としても、地域から上がってきた声というのは「予算」というものに結び付けなければ担保が取れないと思います。まずどのような課題があり、その課題に対してどのような解決策を取れるか、地域と行政とが一緒に考えて結論を出すことで方向性が決まってくるので、そのための時間がまずあり、そこから予算に結び付け、施策につなげるという段階を踏ませていただくことになります。担保がとれる段階に至るには、まず予算を編成し、それが裏付けとなって施策を始めることが必要です。したがって今は担保を確保するという事は難しいものと考えております。
市川第一地区	2月の会議で急にアンケートが行われましたが、我々も準備不十分であり、どう書いて良いかわかりませんでした。元々地区の中でもなかなか問題点というものが出てきておらず、そこにアンケートということで難しかったです。 夏の時期にも別のアンケートで問題点について回答しましたが、それとは別にアンケートを実施するという事も疑問でした。書く方も急に依頼されると困るので、このようなアンケートを実施する場合、事前に連絡があっても良かったのではないかと思います。
地域共生課長	事前にこういったアンケートをするのか、内容について皆様と事前に協議をしてから行うべきでした。次回以降はこういったことがないようにアンケートを実施したいと思います。この度は申し訳ございませんでした。
事務局	ご回答いただいた内容につきましては現在集計中でして、もしまだ回答していない方で回答したいという方がいらっしゃいましたら、用紙を配布いたしますので、担当までお声かけいただければと思います。大変申し訳ございませんでした。

菅野・須和田地区	私は自治会長や地区自治会連合会の役員、地区社会協議会の役員もやっ ていて、一体どの立場でアンケートに回答したら良いのか、自分の立場が あやふやになっていて困っています。
事務局	回答者それぞれの立場があることは重々承知しておりますが、今回のア ンケートは1人の地域住民として回答いただきたいものです。1人の地域 の住民として何ができるかといった「自助」、また自助で賄えないところ に「互助・共助」や「公助」といった役割について地域福祉の中では定め られていますので、その住み分けを行うことを目的としております。
信篤・二俣	アンケートで回答された内容は早急に解決すべき問題だと思いますが、 地域共生課は窓口になろうとしているのでしょうか。
地域共生課長	窓口になれるもの、なれないものがありますが、なれないものについて も、所管課にまず情報共有をして、できる限り関わっていきたいと考えて おります。
南行徳地区	今までなぜこのようなことをやらなかったのでしょうか。今まではパー フェクトで市民の課題に対応されたということでしょうか。改めて課題を 探してみようとして実施したのでしょうか。
事務局	本日は14地区の代表者2名の方々にお集まりいただき実施する地区推 進会議という、歴史の深い会議となっております。コロナ禍により令和2 年から令和4年にかけて、地域活動がままならない状況が続き、その後どう するかという位置に来ておりますので、改めて地域福祉について考えてみ ようということで、今回アンケートを実施いたしました。ご理解ご協力の ほどよろしくお願いいたします。
菅野・須和田地区	「やっていること」「目指していること」は地区推進会議、地区社会福 祉協議会、自治会みな同じです。にもかかわらず、なぜ別々の会議体を設 けて、同じようなアンケートを実施しているのでしょうか。同じような 会議に参加して、計画を立てるだけで1年が終わっているように思いま す。集約して大きな目標を立てるという統一性を図るためにも、何かはな いのでしょうか。
地域共生課長	同じようなアンケートに答えていただいているということは重々承知し ております。集約ができていないことは市の課題でもありますので、連携 や集約をして、同じアンケートを取らないよう努めたいと思います。

真間地区	地区推進会議でアンケートを実施した結果このような回答が得られましたといった報告だけされても、各地区ごとで考え方や動き方が異なります。アンケートで集めた課題については、こんな課題が出たので地域で解決してくださいと投げるのではなく、振り返りなどをしていただき進捗状況については確認をするべきだと思います。 福祉委員といっても拠点にいるのは相談員であって、相談員が地域課題を理解し、行政や社会福祉協議会と協力をして取り組めるかどうかといった課題もありますので、アンケートをとるのであれば課題に対してどうしていくべきかということも考えていただきたいと思います。
事務局	地域課題をまとめたとしても、それが個々の課題の本質的な内容に結びつかない可能性もございます。そのような際には、本市より委託をしておりますコミュニティソーシャルワーカーやがじゅまるプラスの方々もいらっしゃいますので、地域の方にはそこにつなげていただき、相談をしていただくということでカバーができないか現在模索しております。また、そのような課題に対し地域住民の活動と行政側の公助がどう結びついていくかといったところについて、お話をさせていただく会を地区ごとにやらせていただければというふうに考えております。
地域共生課長	アンケートから得られた課題の解決に向け、進捗管理をしていくとともに、行政として何ができるかというのも提案し、話し合いをしていくことを心がけていきたいと思います。
八幡地区	八幡地区でも福祉委員の会議でこのアンケートを実施しましたが、八幡地区の福祉委員は立ち話で話を聞いたり、民生委員の友愛訪問で高齢者の方とお話ししたりするので、やはり高齢者に関する課題が多いと思います。設問1の選択肢「(3)ヤングケアラーに関すること」「(2)子育てに関すること」などは、ほぼ話題として出てきません。お話す相手は子育てを終え、老後の話や自分の病気の話などをしています。学生さんや若い方との接点は何もなく、「うちの子がヤングケアラーです」というような話はほぼありません。よってこのアンケートを私たちが回答すると結果が偏ると思います。もし、地元の中学生在がこのアンケートに回答いただいたら、生活困窮や認知症の徘徊に関してはわかりませんが、「ヤングケアラー」に関しては、私たちよりも確実に人数が多く出るのではないかと思います。このアンケートに回答した年齢層だけでは、本当は助けを求めている方がいても、こぼれてしまうのではないかと、回答していて思いました。何とかこの問題を拾い上げる方法があればなと思います。

事務局	ご意見ありがとうございます。「ヤングケアラー」という言葉を回答者はご存知だろうか、また、ヤングケアラーがいるということをどれくらい皆さんが実感しているのだろうかという懸念や疑問は我々も感じていた中で、今ご意見をいただきました。 本来的には、学校の間やお子さんを抱えてらっしゃる親御さんなどに聞いた方がいいのかなというのは実感いたしました。
菅野・須和田地区	アンケートの項目だけを中心として捉えてしまうのではなく、その他にある隙間の問題に対してもアプローチをしていただきたいと思います。
事務局	ご意見ありがとうございます。では、恐れ入りますが議題(2)の方に進めさせていただきたいと思います。 議題(2)令和6年度生活困窮者支援等のための 地域づくり事業の報告について
事務局	続きまして、議題(2)令和6年度生活困窮者支援等のための地域づくり事業の報告についてです。本市では、令和5年7月から重層的支援体制整備事業 通称「市川市よりそい支援事業」を実施しております。 本事業のうち、地域共生課では、世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所の整備などを通じ、多様な地域活動が生まれやすい環境整備を行う事業 通称「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」を実施しております。事業の実施にあたりましては、事業全体を推進する専門職としてコミュニティソーシャルワーカーを配置し、業務を遂行しております。本日はその4名のコミュニティソーシャルワーカーにお越しいただいておりますので、本日の会議では当該事業の令和6年度の成果についてご報告をさせていただければと思います。 それでは市川市社会福祉協議会よりご説明をお願いいたします。
CSW	(当日資料により説明)
事務局	コミュニティソーシャルワーカー4名の活動報告でした。ありがとうございました。 今お伝えしましたようにグループソーシャルワーカーは4名で活動しております。 内容につきましては具体的な説明がございましたが、高齢者、子供といった世代や、外国籍や障がいを持っているといった属性を越えて、住民の方々の交流ができる、多様な居場所を整備するというような事業となっております。

	ご質問等ございましたら、お時間の都合上、各コミュニティソーシャルワーカーもしくは地域共生課の方にご意見賜ればと思います。 議題(3)その他
事務局	議題の「その他」に入りますが、会議の全体を通して、何かご報告・ご質問・ご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。
真間地区	社会福祉協議会の方でもお話をさせていただいたんですが、改めて行政の方にご要望したいということで意見を述べさせていただきたいと思います。 以前の社会福祉協議会の地区担当者会議でも申し上げましたが、相談員が恐らくどの拠点も、1日2名体制でやっており、出ている報酬が1日3000円、2人で分けると、時給250円です。真間地区社会福祉協議会が始まって23年になりますが、まだ変わっておりません。今、相談員のなり手も少ないということで、現在平均年齢70歳以上ということで私たちの地区もやっておりますが、若い世代の担い手がおられませんし、この金額では受けてくれる人がおられません。若い世代はやはり共働きで、50代6代になると、介護という形で、今の金額ではなかなか見つけることができないということが、現状でございます。賃金がこの23年間上がっていないということで、来年度、何とか予算をつけていただければと、どの地区社会協議会も待っていると思います。毎回で申し訳ないのですが、本当に検討していただきたいと思います。
事務局	ご意見いただきましてありがとうございます。 こちらは予算が関係するものですから、令和7年度の予算は間に合いませんが、令和8年度に向けて、財政課とも調整して参りたいと思います。
終了	

(12時00分閉会)